学校番号	１００７

令和３年度　芸術科（書道）

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
講座名	書道Ⅰ						
使用教科書	「書Ⅰ」　（光村図書）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・小学校、中学校の書写の授業を基礎として書道の幅広い活動を展開し、個々の生徒の個性や能力を活かした芸術としての書表現が出来るような基礎技術の習得。
・基礎書体や行草と楷書に野相違点など書体や用筆法を体験し、筆の弾力を使いこなし、自分らしい文字を書きまた他の作品を鑑賞出来る能力を身につけることをめざします。
・身近に飾られまた自身の作品を制作することで達成感を味わい、書を愛好する心情を育てる。

２　学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、生徒自身が生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、個々の感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	観察・考察プリント レポート ワークシート ポートフォリオ	観察・考察プリント レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察・考察プリント レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察・考察プリント レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期(第1ターム)	書写と書道の相違・古典の学習(楷書を学ぶ)	書写と書道の違い (書体の変遷) 古典(楷書)臨書学習 ・『九成宮醴泉銘』 ・『孔子廟堂碑』 ・『顔氏家廟碑』 ・『牛橛造像記』	○			○	a: 書写と書道の類似点・相違点、正式書体・略式書体について興味を持ち、今後の学習に意欲的に取り組もうとしている。 b:国語科書写での基礎・基本を踏まえ表現を工夫している。 c:姿勢や執筆法の基本を身に付け表現している。 d: 書道の類似点・相違点、正式書体・略式書体について理解し、さまざまな書のよさを味わっている。	観察 考察プリント レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
前期(第2ターム)	行書を学ぶ	古典(行書)臨書学習 ・『蘭亭序』 ・大阪府高等学校書道コンクール作品の制作 ・夏季休暇を利用し多くの古典や書展鑑賞の機会を知らせる。書道コンクールに向けた作品の制作を課題とする。	○	○			a:行書独特の用筆・運筆法や字形を含めた特徴について理解し練習に活かしている。 b: 古典の特徴をとらえ、その筆使いについて理解し、表現を工夫している。コンクールに向けた作品つくりの実施。 c:楷書と行書の相違を踏まえた特徴を身に付け表現している。 d:墨色の変化や抑揚のつけ方を理解し、そのよさを味わっている。	観察 考察プリント レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
後期(第3ターム)	篆刻の学習	・篆書の基本用筆・運筆法を古典を使用し理解する。 『石鼓分』の臨書 落款の効果 ・自分の姓名印の白文を刻す。	○		○	○	a: 篆書の歴史と印の必要性を理解し関心や意欲を持って制作に取り組んでいるか。 b: 篆書独特の用筆法や運筆法の習得や特徴の理解を理解し表現している。 c:篆刻の用具用材を正しく理解し、姓名の印面への配置（白文印・朱文印）や刻し方の理解と工夫。 d:書作品における落款の重要性を理解し書き方やその効果について理解する。	観察 考察プリント レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品

後期（第４ターム）	仮名の書の学習と創作	・仮名の書の学習 仮名の基本用筆・運筆法を古典を使用し理解する。 『高野切第三種』の臨書 ・仮名の書の作品制作 語句 の選定 文字調べ 草稿作成 半紙による作品制作後、作品に応じた料紙（半紙サイズ）に制作する。 落款と押印 ・自分の作品について工夫した点やポイントを発表 ・相互批評会	○	○	○	○	a：かなの書と連綿の有効性、様々な用筆や運筆、全体の構成を理解する。用具用材、紙面構成などへ工夫を加える。 b：自分の書きたい言葉や意欲を引き出し創作意欲の向上をはかる。 c：墨色や用紙の変化、効果的な調和と工夫をはかり文字の大小や抑揚をつける。 d：互いの作品を鑑賞し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品

※　表中の観点について　a：関心・意欲・態度　　b：思考・判断・表現
c：技能　　d：知識・理解

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。